

BIMの現状と今後の展望

BIM (Building Information Modeling) が注目を集めるようになってから数年が経過しています。本誌でも、2009年の春号でBIMの特集を組んでいますが、記事としては海外の先進的な取り組みやルール作り、今後の可能性といった内容が主でした。

それから4年半が経過し、その間国土交通省官庁営繕部では、具体的なプロジェクトにおいて設計段階でのBIMの試行を行って課題を整理していますし、設計、積算、施工の各団体や、当研究所も参画している次世代公共建築研究会でもBIM導入に向けてのガイドライン作りを進めています。また、建築界においてもBIMが話題になり、取り上げられる機会が圧倒的に増えてきました。実用化という観点からすると現時点ではまだ評価が難しいところですが、将来に向けての建築生産システム向上の期待を担っていることは確かです。

海外でもBIMが注目を集めていることは同様で、5月に中国の西安で行われたPAQS (太平洋積算士協会) 大会でも積算・コスト管理分野でのBIMの話題が全体の半分近くを占めていたと言ってもよいほどです。

今回の特集では、国土交通省でのBIM試行の取り組み、BIMとコストマネジメント、建築業、建築設備業での取り組み、海外での最近の状況などについて紹介します。